

宇都宮市立峰小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思う」「自分の行動や発言に自信をもっている」「自分は勉強がよくできる方だと思う」「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「先生は学習のことについてほめてくれる」という設問に対しての肯定的回答は、どれも市・県の平均を6～12%上回っていて、自己有能感が高いと言える。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という設問に対しての肯定的回答は82.6%で、県平均を10%上回っている。学校課題である「コミュニケーション能力の育成」の成果であるとともに、学級への帰属意識が高く、学級力の高さを裏付けている。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という設問に対しての肯定的回答は61.6%であり、市・県の平均を8%上回っている。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」という設問に対しての肯定的回答は83.7%で、県平均を10.7%上回っている。分からない事柄をそのままにせず理解を図ろうとする児童の前向きな姿勢を示すとともに、教師と児童の間に安心して話ができる関係が出来上がっていると見える。

●「早寝、早起きを心がけている」という設問に対しての肯定的回答が、市・県の平均を5%ほど下回った。家庭にも呼びかけ、規則正しい生活習慣づくりに取り組ませたい。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という設問に対して、「30分以下」が37.2%で、内7%が「全くしない」と回答した。市・県の平均に比べ、家庭学習に取り組む時間が短い。また、「学校の授業時間以外に、ふだん(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の設問でも、「10分以下」が43%であり、30%前後の市・県の平均に比べ、読書に勤しむ児童が少ない。一方で、「ふだん(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の設問に対しては、「3時間以上」と回答した児童が19.8%おり、ゲームに時間を割き、学習や読書の時間が少なくなっている現状が見て取れる。これらの結果を受けて、帰宅後の時間の使い方を見直させ、「家庭学習の手引き」をさらに活用し、復習に力を入れるよう指導したい。